

平成24年度営繕工事の概要

第1節 営繕業務

1 営繕業務

営繕業務には、知事部局及び教育庁の依頼に基づき実施する県有建築物の新築・増改築と、県が保有する492施設、延べ床面積約2,108千㎡のうち、334施設、延べ床面積約1,615千㎡について行う維持修繕等があります。(数値は、いずれも平成23年度末現在。)

これらの工事に関する調査・設計・工事監督等を通じ、営繕課と各地域振興局建設部が連携をとりながら、安全で安心して利用できる県民共有の財産の整備を図っております。

2 重点的な取り組み

営繕工事の技術管理業務を通じて、県民共有の財産である県有建築物が、多くの県民に親しまれ活用されるよう、次のような基本事項を踏まえた取り組みを実践しております。

- ① 県民に親しまれる建築物
 - ・ 街並みや周辺環境と調和した建築計画。
- ② 利用者にやさしい建築物
 - ・ 地域の気候風土を踏まえ、敷地と建築物の各機能に応じた適切なバリアフリーを推進。
- ③ 環境にやさしい建築物
 - ・ 県有建築物の環境負荷の低減化。
 - ・ 自然エネルギー(地中熱、雪冷房、太陽熱等)、雨水、地下水の利用。再生資材の活用。
- ④ 県産材を活用した建築物
 - ・ 秋田杉に代表される県産木材を活用し、公共建築物の木造化、木質化を推進。
- ⑤ 安全で安心して使える建築物
 - ・ 構造上、防災上の安全性の他に、使用材料の安全性の確認。
- ⑥ 広報・広聴の充実
 - ・ 美の国あきたネットを活用した発信情報の充実。
- ⑦ 公共建築物の環境マネジメント
 - ・ 環境負荷低減計算ソフトを利用した修繕計画の作成。

県産材活用の事例

(あきた総合支援エリアかがやきの丘の技術交流センターは木造として、ホール部分は構造部材をそのまま表しています。)



あきた総合支援エリアかがやきの丘・技術交流センター ホール 内観

第 2 節 営繕関係事業

1 平成24年度営繕工事の概要

平成24年度に営繕課が知事部局及び教育庁から事務の依頼を受けて実施する予定の受託事業は、延べ128件、年度総工事費約7,645百万円の見込みです。

これは、前年度(事務依頼ベース)に比べて件数で約102%、年度工事費で約147%になります。

機関名	平成24年度当初		平成23年度当初		対前年度比較	
	件数	工事費	件数	工事費	件数	工事費
	(件)	(千円)	(件)	(千円)	%	%
知事部局	73	2,027,070	76	2,246,663	96%	90%
教育庁	55	5,618,395	50	2,960,756	110%	190%
総計	128	7,645,465	126	5,207,419	102%	147%

※ 修繕工事や耐震改修等を含む

(平成24年4月現在)

2 平成24年度主要工事の概要

平成24年度に工事継続中又は工事発注予定の主な事業は次のとおりです。(平成24年4月現在)

能代地区統合高校(仮称)整備事業 建設地：能代市 構造規模：RC造4/0+木造2/0他 約14,900㎡ 工期：H23～H27	大曲工業高校実習棟・体育館改築事業 建設地：大仙市 構造規模：RC造3/0他、約7,800㎡ 工期：H24～H26
--	--

平成24年度に設計継続中又は設計発注予定の主な事業は次のとおりです。(平成24年4月現在)

- ・秋田中央高校改築事業
- ・秋田工業高校改築事業
- ・角館地区統合高校(仮称)等整備事業
- ・大館地区統合高校(仮称)整備事業
- ・大曲農業高校整備事業

3 事業紹介

【完成施設】 あきた総合支援エリアかがやきの丘

- [建築場所] 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢地内
[竣工] 平成22年3月
[計画概要] 鉄筋コンクリート造 2階建 ほか
延べ床面積 約 28,000㎡

[施設の特徴]

医療と教育の連携による総合支援の提供や、自立・共生・社会との交流などを視野に入れ、既存施設の補完や統合・整備にとどまらず、これまでになく全く新しい環境を提供することを目指して計画されました。

全ての利用者が安心して安全に利用できるよう特に配慮し、こころの拠り所となる明るく清潔で、そして、県産木材を多く活用した、やさしさとぬくもりのあるデザイン計画としています。



あきた総合支援エリアかがやきの丘 外観

【事業継続中施設】

(1) 能代地区統合高校(仮称)整備事業

- [建築場所] 能代市緑町4-10
(能代商業高校敷地内)
- [竣工予定] 平成27年
(平成25年4月 開校)
- [計画概要] 鉄筋コンクリート造 4階建
鉄筋コンクリート+木造 2階建ほか
延べ床面積計 約 14,900㎡



[施設の特徴]

能代商業高校の敷地に能代北高校の「節操高潔」と能代商業高校の「誠実剛毅」の校風を引き継ぐ新統合校は、「地域の特性、生活、文化交流による国際コミュニケーション能力を育むための施設」、「地域一体となり産業社会、国際社会で活躍できる魅力的な人間づくりのための施設」、「新たなる統合校の新風を起こし、新時代に対応できる施設」を基本コンセプトに計画されました。

校舎は、正門から中庭を取り囲むように管理特別教室棟と教室棟をコの字型に配置して、動線が短く明確になるようにしました。また、木材のまちな能代の地域性を象徴するように教室棟の一部は木造化し、昔ながらの木造建築をイメージさせ、内装の木質化にも積極的に取り組んでいます。

(2) 大曲工業高校実習棟・体育館改築事業

- [建築場所] 大仙市大曲若葉町3-17
(現校舎敷地内)
- [竣工予定] 平成25年
- [計画概要] 鉄筋コンクリート造 3階建 ほか
延べ床面積計 約 7,800㎡



[施設の特徴]

わが国や郷土のよりよい未来を指向する「ものづくり人材」の育成を基本理念として、「自然エネルギーを活用するための施設」、「ものづくりを通してエネルギーの創出や活用を図ることのできる施設」、「学校開放による地域利用や災害時の避難場所として機能できるなど地域住民にも魅力のある施設」を基本コンセプトに計画されました。

実習棟と第一体育館は一体の建物とするなど校地の有効利用を図りました。実習棟には学科の枠を超えた創造的なものづくりの場となる「ものづくりコラボレーションスペース」を設けるほか、中庭により明るい実習空間を創り出しています。